

「教育方法学」または「教育方法・情報通信技術活用論」を受講している皆様へのお願い

授業担当者 南部昌敏（聖徳大学）

「教育方法学」または「教育方法・情報通信技術活用論」に関する指導案レポートを作成していただく際に次のことに留意してくださるようお願いいたします。

1. 園・学校種等について

- ・対象の園・学校種等を想定して、記述しましょう。

2. 学習者観について

- ・単元・題材・テーマ等に関連して、これまで学習し、経験している事、得意・不得意などの実態を想定して記述しましょう。

3. 教材観について

- ・取り入れた教材が学習目標の達成にどのように有効なのか、その教材の特徴や価値について記述しましょう。

4. 指導観について

- ①対象の学習者全員を学習目標に到達させるためには、どのように指導することが最善の方策なのか、について記述しましょう。
- ②「教育方法・情報通信技術活用論」の場合、対象の学習者全員を学習目標に到達させるためには、情報通信技術をどのように活用することが最善の方策なのか、について記述しましょう

5. 単元計画について

- ・この単元全体に授業を実施するために、何時間を必要としますか、各時間のテーマを記述するとともに、本時は何時間目かを記述しましょう。

6. 学習目標について

- ・この1時間の授業ですべての学習者に達成させたい目標を、目標に到達したことが確認できるように、学習者の姿として、たとえば、「理解することができる」の場合は、「理解したことを説明することができる」というように、具体的行動として記述しましょう。

7. 授業展開について（記号はカッコ書きで）

- ①「学習内容と活動」および「授業者からの働きかけ等」の枠には、思考活動がスムーズに流れるように、教科書の32-39ページを熟読し、ガニエの9教授事象（G1からG9）のそれぞれの働きかけの意図と機能を理解したうえで、導入段階で、G1、G2、G3を、展開段階で、G4、G5、G6、G7を、まとめの段階で、G8、G9のそれぞれに関する具体的働きかけを記述しましょう。
- ②「指導上の留意点等」の枠には、学習意欲を喚起しそれを持続させるために、教科書の10章を熟読し、ARCSモデルのA1からV3の手だてを意識し、導入段階でA：注意（面白そうだな）、展開段階の前半で、R：関連性（やりがいがありそうだな）、後半で、C：自信（やればできそうだな）、まとめの段階で、S：満足感（やってよかったな）と感じさせるように、それぞれに関する具体的手だてを盛り込みましょう。さらに、発問、予想される反応と対応策、板書計画、ペア学習・グループ学習、情報機器（メディア）利用、診断的評価・形成的評価の評価方法等についても盛り込みましょう。
- ③「教育方法・情報通信技術活用論」の場合、「情報通信技術の活用」の枠には、その段階の目的を達成するために最適なメディアを選び、その活用方法について記述しましょう。

8. 総括的評価について

- ・「6. 学習目標」に記述した一つ一つの目標の達成状況を評価するための具体的方法を、それぞれに対応させて記述しましょう。